

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 藤塚中学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 須田 剛

学校教育目標	学校経営の方針
知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる	(1)生徒が学ぶ意欲を感じられる授業づくり (2)「いのち」を大切に作る心、他社を尊重する心づくり (3)生徒が安心安全に過ごせる環境づくり (4)生徒と教職員が協力して創り上げる学校づくり (5)保護者・地域に信頼される絆づくり

今年度の重点目標

(1)心を育てる「考え、議論する道徳」の実践 (2)自分たちで課題を見つけ、解決していく生徒の育成

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
人権意識と高める教育を推進する	2・3	生徒会目標であるAIU3原則(あいさつ強化・いじめ撲滅・歌声強化)の中で、いじめ防止に向けた取組を強化して行った。	生徒会活動を中心に、定期的に仲間を認め合う活動を行うことにより、他者理解やいじめ防止につながった。	今年度の取り組みを継続する。
生徒の「生きる力」を育む	3	生徒会活動や学校行事などを通じて、生徒に様々な経験をさせる機会を設け、自主性や協調性などの育成を図った。	委員会活動を学級の係活動と連携し、生徒会活動にかかわる場面を十分設けることができた。また、行事では、準備や練習、本番を通して、集団のために進んで取り組ませることができた。	生徒が様々な経験ができるような教育課程を編成する。また、生徒が主体的に活動できる場面がつかれるよう計画する。
生徒が安心して生活できる学校をつくる	1・3	学校生活アンケートを毎月実施し、学期初めに教育相談を実施した。また、三者面談やQUを実施した。	学校生活アンケートに書かれたことを、学年で共有し個々の生徒に対応することができた。また、QUの結果を生かすために、エンカウンターに取り組むことができた。	今年度と同様に進めていく。次年度はYPを実施するので、結果の読み取り方等について研修する。
安心安全教育の推進を図る	3	避難訓練、引き渡し・集団下校訓練、スケアード・ストレイトを実施した。	避難訓練、引き渡し・集団下校訓練を通して、緊急時の避難行動について実際の状況に即して確かめることができた。また、スケアード・ストレイトを行い、自転車の交通安全について考えさせることができた。	震度5強以上が発生したときの避難行動を確認できるような避難訓練等を実施する。また、地域の防災訓練への積極的参加を促す。
指導目標を明確にした教科指導を推進する	1	職員会議で学習指導部より全教職員に対し、多くの情報提供を行った。教員個々が指導方法の改善に努めた。	今年度は「考え、議論する道徳」について校内研究を進めたため、教科指導については、教科部会で研究・研修を進めた。	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりや主体的に学習に取り組む態度の評価方法について研究を積み重ねる。
基礎基本の徹底を図る	1	ワークシートを工夫したり、GIGAスクール端末を活用したりした。また、週末課題によって基礎基本を反復練習させた。	学習につまずきを感じている生徒が多数いるが、GIGAスクール端末を活用してわかりやすい授業、ねらいにせまる授業を展開した。また、週末課題等によって、基礎基本の定着を図ることができた。	わかりやすく楽しいと感じられる授業づくりを継続する。GIGAスクール端末については、授業実践を通して効果的な活用方法を探っていく。
学力の向上を図る	1	定期試験前の放課後に学習会を実施し、理解が不十分なところについて質問したり問題練習したりする機会を設けた。	学習会に積極的に参加する生徒が多い。また、昼休みなども進んで質問する生徒もいる。しかし、日常的に学習をサポートする体制をつくることができていない。	昼休みや放課後など、日常的に学習をサポートできる体制づくりをする。また、小学校と連携し、学力向上に努める。

生徒の個性や能力に応じた進路指導を推進する	1・3	総合的な学習の時間における進路学習を通して、卒業後の進路及び働くことなどについて考えさせた。	1年は職業講話を、3年で上級学校説明会や進路選択のための取り組みを計画どおり行うことができた。また、2年では3年ぶりに職場体験学習を行うことができた。	系統的・計画的に進路学習を計画する。また、職場体験学習について、新規の事業所の開拓などを学校運営協議会と進めていく。
学校と地域との連携を図る	3	青少年健全育成会等との連携を図った。ホームページを通じて、学校の様子を地域に発信した。	青少年健全育成会等と連携し、地域の活動(年末美化清掃など)に生徒が進んで参加することができた。また、ホームページの更新は、まめに行うことができた。	年末美化清掃や防災訓練などのときは、原則として部活を行わず、生徒の積極的参加を促す。また、学校生活の様子は引き続き積極的に地域に発信する。

今年度の学校関係者評価委員会からの報告

学校関係者評価委員会は3月2日に実施した。交通安全について、①スケアード・ストレイトが実施できて効果的であったこと、②自転車ヘルメットの着用努力義務化にあたり購入補助が出ることを含めた指導や情報提供の必要性の意見をいただいた。また、定期試験や学習評価のしかたについて質問があり、学校の回答に対して理解いただけた。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

学校教育活動は、全職員の共通理解のもと取り組むことができた。
 生徒指導面については、生活や授業のルールを守って学校生活を送っており、落ち着いて授業が展開されている。その一方で、学習につまずきを感じたり、対人関係のトラブルなどの原因から長く欠席する生徒が多い。このような生徒への支援の中心は担任であるが、担任や学年だけで抱えるのではなく、教育相談コーディネーター、元気アップアシスタント、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関との連携を図りながら改善に努めている。
 学習面については、学力向上や家庭学習の習慣づけにむけて指導を継続しているが、その成果は十分であるとはいえない。家庭の協力も含めて、改めて力を注いでいく必要を感じている。
 本校では、外国につながる生徒が多いが、そのような生徒の中には、日常生活には大きな不便を感じていなくても、教科学習における日本語が難しいと思われる生徒もいる。今後も、国際教室を生かして個々の生徒を支援する。